

授業科目	保育原理	担当教員	美馬 正和		
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	1.保育の意義及び、保育所保育指針における保育の基本、保育の内容と方法の基本について理解する。 2.保育の思想と歴史の変遷について理解する。3.保育の現状と課題について考察する。				
到達目標	・保育の理念および基本的な知識、保育所保育指針を学び、正しく説明できる。				
テキスト・参考図書等	新基本保育シリーズ1 第1巻 「保育原理」／天野珠路、北野幸子／中央法規(参考図書)				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業での積極性、グループワーク等に対する参加意欲、レポート(30%)</li> <li>・筆記試験による評価(60%)</li> <li>・プリント資料の活用、提出とその内容(10%)</li> </ul>		
	レポート	10			
	小テスト	0			
	提出物	10			
その他	20				
履修上の留意事項	プリント資料を活用し、グループワーク等も行いながら保育の原理と制度、保育の基本をしっかりと理解し実践しましょう。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション 保育の意義	・年間授業の概要、評価の方法説明 ・保育の理念と概念		
	2	保育の社会的役割と責任	・子ども家庭福祉と保育 ・子どもの虐待防止と保育		
	3	子ども・子育て支援新制度と保育にかかわる関係法令	・子ども・子育て支援新制度について ・社会的養護と保育		
	4	保育の実施体系	・保育施設の設置および運営の基準 ・保育の必要性の認定		
	5	保育所保育指針に基づく保育	・保育所保育指針とは何か ・保育指針に基づく保育の展開について		
	6	保育の目標と方法	・環境を通じた保育 ・生活と遊びを通じた総合的な保育		
	7	乳児の保育	・乳児保育の基本 ・乳児保育の内容 ・乳児保育の配慮事項		
	8	1歳以上3歳未満児の保育	・1歳以上3歳未満児の保育について		
	9	3歳以上の保育	・3歳以上の保育について		
	10	子ども理解に基づく保育の過程①	・子ども理解の視点 ・子ども理解に基づく保育の計画		
	11	子ども理解に基づく保育の過程②	・子ども理解の方法 ・指導計画や実践記録について		
	12	諸外国の保育の思想と歴史	・近代以前の保育と保育思想 ・保育思想を学ぶ必要性		
	13	日本の保育の思想と歴史	・近代までの日本の保育の思想と歴史について		
	14	諸外国の保育の現状と課題	・諸外国の保育の現状と課題について		
15	まとめ	・日本の保育の現状と課題について			



授業科目	英語コミュニケーション	担当教員	川村 ジェアネッテ		
対象年次・学期	1年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	新しい単語を学び、基礎的な会話力を身につける。				
到達目標	子どもたちが楽しく英語を学べるような工夫ができる。				
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験によりコミュニケーション能力を確認する</li> <li>・ペア及びグループワークでの参加状況から積極性を確認する</li> </ul>		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
その他	40				
履修上の留意事項	プリント、カード、写真などを活用し、歌や遊びも加えながら、楽しく授業をしていきたいと思えます。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	Greetings	Basic Greetings.、 Exercises using cards and prints.		
	2	Self Introduction	Printed games and cards.、 Pair work.		
	3	Numbers	How to use numbers Correctly and pronunciation exercises.		
	4	Address	The students will learn how to write address and letters.		
	5	Telephone	Oral exercises. Use of pictures.		
	6	Places/Directions	Group work. Places Game. Use of pictures.		
	7	Jobs	The students will research different kinds of jobs.		
	8	Wh Questions	Training of (Where、 When、 What、 How、 etc)		
	9	Verbs	Magnet Cards Game.、 Meaning and Basic uses.		
	10	Children Songs	About animals、 food、 etc.、 (Group work) Play and sing.		
	11	Adjectives	Opposite words.		
	12	Children Games	Games that children play in Japan and compare with other countries.		
	13	Annual Events	Explanation : Questions/Answers/Easter/Halloween/X-mas		
	14	Prepositions	Cards/Sentences (Basic)		
15	Evaluation	Evaluation of general learning and participation.			



授業科目	タッチレッスンⅠ		担当教員	平原 由衣	
対象年次・学期	1年・通年		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数 30時間
授業目的	1. 芸術鑑賞及び観劇を通して、美的感覚・色彩感覚を磨き、感動する心・感受性を養う。 2. 行事の企画運営を通して、現場での実践力を養う。 3. 見学や体験を通して、命の大切さを学ぶ。				
到達目標	・芸術鑑賞等で味わった感動を受け止め、心に感じたことを表現することができる。 ・行事の企画運営を通して、企画力、調整力、実践力を身につける。 ・命の大切さを知り保育士としての役割を認識する				
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	見学や体験の参加態度、表現、見学・体験・鑑賞のレポート、グループでの発表等を総合して成績評価を行います。		
	レポート	40			
	小テスト	0			
	提出物	0			
その他	60				
履修上の留意事項	学外施設の見学や鑑賞、及び表現活動等、この科目は、感性を豊かにすることを第一の目標にしています。豊かな感性で、子どもの気持ちを上手に受け止めることができるために必要な授業です。心から楽しんで参加しましょう。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	基礎感覚・感受性を育てる	観劇1を通して、感性を養う		
	2	基礎感覚・感受性を育てる	行事企画		
	3	基礎感覚・感受性を育てる	行事企画		
	4	基礎感覚・感受性を育てる	芸術鑑賞を通して、感性を養う		
	5	絵本文学に触れ感性を養う	ふきのとう文庫見学		
	6	表現する能力を養う	ワークショップを通して表現力を養う		
	7	行事の企画運営から実践力を養う	1年生を迎える会に参加し企画運営を学ぶ		
	8	行事の企画運営から実践力を養う	2年生を送る会の企画運営をし、実践力を養う		
	9	行事の企画運営から実践力を養う	2年生を送る会の企画運営をし、実践力を養う		
	10	命の大切さを学ぶ	命の授業		
	11	命の大切さを学ぶ	普通救命講習 心肺蘇生法・応急手当他		
	12	命の大切さを学ぶ	普通救命講習 心肺蘇生法・応急手当他		
	13	命の大切さを学ぶ	防災センター見学を通し、命の大切さを学ぶ		
	14	命の大切さを学ぶ	姉妹校連携授業（こどもの応急処置）		
15	まとめ	発表・評価・反省			



授業科目	形態別介護技術Ⅰ	担当教員	櫻井 かおる		
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉の関係機関について、特徴や役割を学ぶ。</li> <li>・聴覚障害者の言語である「手話」の基本を学びます。</li> <li>・外見では分かりにくい聴覚障害についての理解を深めながら、実際に聴覚障害者と接した時に適切な対応ができ、且つ積極的なコミュニケーションをとるための方法を学びます。</li> </ul>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉の関係機関について、特徴や役割を理解する。</li> <li>・聴覚障害者への配慮と対応方法を学び、聴覚障害者のコミュニケーション手段の1つである手話という言語を基礎から学び、初歩的な会話ができる。</li> <li>・聴覚障害者が社会生活をおくる上での様々なバリアについて考察し、説明できる。</li> </ul>				
テキスト・参考図書等	さっぽろの手話/公益社団法人札幌聴覚障害協会				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	50%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手話に関する評価： 「実技：読み取り」「小論文」50% 授業参加態度 10%</li> <li>・施設見学等に関する評価： 事後レポート 15% 小テスト 10% 授業参加態度 15%</li> </ul>		
	レポート	15%			
	小テスト	10%			
	提出物				
その他	25%				
履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書をもとに、日常生活を想定した基本的な手話を学ぶ(実技)・ビデオなどで実際のコミュニケーションを学ぶ・手話などの学習をとおして豊かな表現力を身につけてほしいと思います</li> <li>・聴覚障がい者と出会ったとき、積極的にコミュニケーションする人になってほしいと願っています</li> </ul>				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	介護技術、形態別介護技術を学ぶ意義と必要な知識、運動機能意障がいと麻痺についての医学理解		
	2	肢体不自由者の介護	介護技術・肢体不自由者(児)の生活の理解・ボディメカニクスの原理		
	3	肢体不自由者の理解を深める	特別支援学校 OG 講話		
	4	保育・福祉関係施設の理解を深める	特別支援学校見学(真駒内養護学校)		
	5	保育・福祉関係施設の理解を深める	特別支援学校見学(真駒内養護学校)		
	6	保育・福祉関係施設の理解を深める	特別支援学校見学(札幌聾学校)		
	7	保育・福祉関係施設の理解を深める	特別支援学校見学(札幌聾学校)		
	8	ガイダンス・聴覚障がいの基礎知識Ⅰ	授業の目的、注意事項、「聴覚障がい者・コミュニケーションについて」		
	9	自己紹介・家族紹介	挨拶・名前を表す方法を学び、コミュニケーションの方法がいろいろあることを理解		
	10	聴覚障がいの基礎知識Ⅱ	DVD鑑賞・聴覚障がい者の生活を考える		
	11	数字を使って話す	数の表し方を学習して疑問詞を使って会話練習		
	12	聴覚障がいの基礎知識Ⅲ 仕事について話す	聴覚障がい者の生活について「講師の体験」		
	13	時に関する手話	1日、1か月、1年に関する手話を学習して、時の表し方を身に付ける		
	14	総合学習	会話の演習(保育園での会話練習)		
15	まとめ	「実技：読み取り」「小論文」			



授業科目	こどもと運動遊び	担当教員	上山 七々子		
対象年次・学期	1年・後期	必修・選択区分	選択必修	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	さまざまな運動遊びの体験を通して、その遊びの役割について学ぶ。体を動かす大切さを実感するとともに、こどもに対する運動あそびの展開を考察する。				
到達目標	運動あそびの実践方法を理解し、自分で運動あそびの展開を考え、実践する。				
テキスト・参考図書等	授業内で資料を配布します。				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	<提出物> 提出期限・内容についての評価 <その他> 課題への積極性・創意工夫・チームワーク・実践授業の参加状況による総合評価		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	20			
その他	80				
履修上の留意事項	実技を中心に行います。運動に適した動きやすい服装で授業に参加してください。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	幼児にとっての運動の意味		
	2	運動あそびの実践	さまざまな運動あそび		
	3	〃	コーディネーションを用いたあそび		
	4	〃	道具を用いた運動あそび		
	5	〃	〃		
	6	運動あそびの展開	展開についての留意点と組み立て方		
	7	〃	展開の考察とグループワーク		
	8	〃	運動遊び演習		
	9	〃	運動遊び演習		
	10	〃	振り返り		
	11	集団あそびの実践	集団遊びの留意点及び実践方法		
	12	〃	展開の考察とグループワーク		
	13	〃	実践計画		
	14	〃	実践		
15	まとめ	まとめ			



授業科目	保育の理解と方法Ⅲ	担当教員	浦島 葉子		
対象年次・学期	1年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	30回	時間数	60時間
授業目的	子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境など指針に示される保育の内容を理解したうえで、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。				
到達目標	保育の教材・教具等の制作や楽しく豊かな活動を支える環境を築くことができる。実際に活動を展開するにあたり習得した知識や技術を実践することができる。				
テキスト・参考図書等	保育者のための言語表現の技術/古橋和夫/萌文書林				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	提出物・グループワーク参加状況を総合して評価します。		
	レポート	10			
	小テスト	0			
	提出物	80			
その他	10				
履修上の留意事項	保育の現場で、必要とされる実践技術を習得できるよう実技演習、グループワーク等積極的に参加しましょう。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	保育の現場で活用される児童文化財の理解		
	2	児童文化財とは	絵本		
	3	児童文化と表現	絵本読み実践		
	4	児童文化と表現	振り返り		
	5	児童文化と表現	紙芝居		
	6	児童文化と表現	紙芝居実践		
	7	児童文化と表現	紙芝居実践振り返り		
	8	児童文化と表現	パネルシアター		
	9	児童文化と表現	パネルシアター実践		
	10	保育園実践前のシミュレーション	実践に向けて役割分担の確認、練習を行う		
	11	保育園実践前のシミュレーション	実践に向けて役割分担の確認、練習を行う		
	12	保育園実践前のシミュレーション	実践に向けて役割分担の確認、練習を行う		
	13	保育園実践前のシミュレーション	実践に向けて役割分担の確認、練習を行う		
	14	保育園実践			
	15	保育園実践のまとめ	実践の録画を見ることにより、振り返りを行い課題を見つける		
	16	児童文化財の理解と製作	ペープサート製作		
	17	児童文化財の理解と活用	ペープサート製作・実践		
	18	児童文化財の理解と活用	児童文化財を使ってお話を作る(幼児)		
	19	児童文化財の理解と活用	児童文化財を使ってお話を作る(幼児)		
	20	行事の理解	保育園における行事を理解とグループワーク		
	21	行事の理解	実践発表に向けての全体構想とグループワーク		
22	指導案作成	実践発表に向けての指導案作成とグループワーク			

	23	指導案作成	実践発表に向けての指導案作成とグループワーク
	24	実践発表に向けての制作	指導案に基づいての台本作りと制作
	25	実践発表に向けての制作	指導案に基づいての台本作りと制作
	26	実践発表に向けての制作	指導案に基づいての台本作りと制作
	27	実践発表に向けての制作	指導案に基づいての台本作りと制作
	28	保育園実践前のシミュレーション	実践発表に向けて役割分担の確認、練習を行う
	29	保育園実践	役割を分担して実践演習発表する。
	30	まとめ	実践の録画を見ることにより、振り返りを行う。



授業科目	保育実習Ⅰ(保育所)	担当教員	平原 由衣		
対象年次・学期	1年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	45回	時間数	90時間
授業目的	観察や子どもとの実際の関わりを通して子どもへの理解を深めるとともに、保育所の役割や機能を具体的に理解する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習についての意義、目的、施設内容など事前指導の内容を十分理解し主体的に実習に取り組むことができる。</li> <li>・実習終了後の振り返りをしっかり行い、得られた成果と課題を整理、表現することができる。</li> </ul>				
テキスト・参考図書等	実習要項				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	実習先からの評価、訪問指導時の準備・態度・報告内容、提出物等をもとに総合的に評価する		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	30			
	その他	70			
履修上の留意事項	詳細は実習要項に記載				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	保育所の役割と機能	保育所の生活と一日の流れ		
	2	〃	保育所保育指針の理解と保育の展開		
	3	子どもの理解	子どもの観察とその記録による理解		
	4	〃	子どもの発達過程の理解(乳児)		
	5	〃	子どもの発達過程の理解(幼児)		
	6	〃	子どもへの援助や関わり(乳児)		
	7	保育内容・保育環境	保育の計画に基づく保育内容		
	8	〃	子どもの発達過程に応じた保育内容		
	9	〃	子どもの生活や遊びと保育環境		
	10	〃	子どもの健康と安全		
	11	保育の計画・観察・記録	全体的な計画と指導計画の理解と活用		
	12	〃	記録に基づく省察・自己評価		
	13	専門職としての保育士の役割と職業倫理	保育士の業務内容		
	14	〃	職員間の役割分担や連携		
15	〃	保育士の役割と職業倫理			



授業科目	乳幼児保育Ⅱ		担当教員	平原 由衣	
対象年次・学期	1年・通年		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数 30時間
授業目的	養護及び教育の一体性をふまえ、乳幼児の発育や発達の特徴・関わりの基本、生活や遊び・保育の方法・環境について理解する。				
到達目標	乳幼児の保育において必要な基本的知識・技能の方法について説明し実践できる。				
テキスト・参考図書等	講義で学ぶ乳児保育／〔編著〕 小山明子 亀崎美沙子 善本眞弓 / わかば社				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業での積極性、グループワークや実技に対する参加意欲(60%)</li> <li>・レポート、提出物とその内容(40%)</li> </ul>		
	レポート	20			
	小テスト	0			
	提出物	20			
	その他	60			
履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書、プリント資料などを活用し学び、グループワークなどを通して乳幼児の保育への理解を深める。</li> <li>・乳児の模型を使用し保育に必要な演習を行う。</li> </ul>				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	◎乳児保育の基本 ◎子どもと環境について	・乳児保育の基本について ・領域「環境」の理解		
	2	◎子どもの発育と発達を踏まえた生活と遊びの実際①	・乳幼児の保育環境と遊びについて		
	3	◎子どもの発育と発達を踏まえた生活と遊びの実際②	・乳幼児期の睡眠の仕組み・大切さについて		
	4	◎子どもの発育と発達を踏まえた生活と遊びの実際③	・年齢ごとの発育、発達と遊びの内容について ・年齢別の配慮や関わり方		
	5	◎子どもの発育と発達を踏まえた生活と遊びの実際④	・授乳、離乳について ・乳幼児期の食事について		
	6	◎子どもの発育と発達を踏まえた生活と遊びの実際⑤	・乳児期の排泄の特徴 ・赤ちゃん人形を使い演習(おむつ替え)		
	7	◎子どもの発育と発達を踏まえた生活と遊びの実際⑥	・赤ちゃん人形を使い着脱の援助 ・ベビーマッサージ等の演習		
	8	◎環境に配慮した園での取り組みについて学ぶ①	・各園で行っている保育におけるSDGsへの取り組みについて(調べ学習・グループワーク)		
	9	◎環境に配慮した園での取り組みについて学ぶ②	・各園で行っている保育におけるSDGsへの取り組みについて(資料作り・発表)		
	10	◎乳児保育における配慮の実際①	・子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮について		
	11	◎乳児保育における配慮の実際②	・乳幼児保育における環境の整備・配慮などについて ・集団での生活の配慮について		
	12	◎乳児保育における環境作りについて①	・保育現場での環境作りを考え、室内装飾等にも活かせる制作を行う		
	13	◎乳児保育における環境作りについて②	・保育現場での環境作りを考え、室内装飾等にも活かせる制作を行う		
	14	◎乳児保育における保育園の実際	・保育園における乳幼児保育の実際について		
15	◎まとめ	・授業の振り返りとまとめ			



授業科目	こどもの保健演習 B	担当教員	浦島 葉子		
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	こどもの保健の基礎知識を学び、保育の現場において実践できる力を養う。				
到達目標	こどもの保健の基礎知識を理解し、保育者として実践できる。				
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	保育現場での実習態度(子どもへの関わり等)・提出物(レポート、日誌)		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	80			
	その他	20			
履修上の留意事項	実習は、真面目に取り組むこと。命をあずかる仕事をすることを自覚すること。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	こどもの保健とは	オリエンテーション・目的・目標・内容		
	2	こどもの健康と保育の環境	保育所の特性と環境の配慮		
	3	観察実習(1)	保育における健康及び衛生、安全の管理		
	4	観察実習(2)	事故防止および安全対策		
	5	観察実習(3)	災害への備えと危機管理		
	6	観察実習(4)	保育における保健的対応の基本的な考え方		
	7	観察実習(5)	体調不良や傷害が発生した場合の対応		
	8	観察実習(6)	感染症の集団発生の予防と罹患後の対応		
	9	観察実習(7)	3歳未満児への適切な対応		
	10	観察実習(8)	救急処置および救急蘇生法		
	11	観察実習(9)	個別的な配慮を要する子どもへの対応		
	12	観察実習(10)	保育における保健計画および評価		
	13	振り返り	子どもを中心とした家庭・専門機関・地域との連携		
	14	振り返り	職員間の連携と協働		
15	まとめ	評価・反省			



授業科目	保育・教育課程論	担当教員	浦島 葉子		
対象年次・学期	1年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	日々の保育の基本となる保育課程・教育課程（カリキュラム）を学ぶ。また、子ども達のより良い発達を促す効果的で実践的な保育計画について学ぶ。				
到達目標	子どもの理解に基づく保育の過程について学び、その全体像を捉え、指導計画立案が出来る。				
テキスト・参考図書等	教育・保育カリキュラム論 千葉武夫・那須信樹 中央法規				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	70	定期試験、提出物等の総合評価とする。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	30			
その他	0				
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	日本におけるカリキュラムの基礎理論	幼稚園教育要領・保育所保育指針の変遷		
	2	保育における計画	保育計画の意義・PDCA サイクル		
	3	子ども理解に基づく保育の循環	カリキュラム・マネジメント		
	4	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の性格と位置づけ	指導案作成に基づく理論・レポート		
	5	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の性格と位置づけ	幼児教育について・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿		
	6	0歳児の指導計画	乳児の発達の特徴と配慮		
	7	1歳以上3歳未満児の指導計画	1歳以上3歳未満児の理解と保育内容		
	8	指導計画作成上の留意事項	子どもと保育者への視点		
	9	3歳児の指導計画	指導計画立案		
	10	4・5歳児の指導計画	製作・運動指導計画立案		
	11	4・5歳児の指導計画	製作・運動指導計画立案		
	12	4・5歳児の指導計画	製作・運動指導計画立案		
	13	4・5歳児の指導計画	製作・運動指導計画立案		
	14	小学校との連携	就学前教育との接続について		
15	まとめ	まとめ			



授業科目	保育実習指導Ⅰ(保育所)		担当教員	浦島 葉子	
対象年次・学期	1年・後期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数 30時間
授業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習の意義を学び、学外での実習準備としての日誌の記録や指導計画等を学ぶ。</li> <li>・保育実習Ⅰを踏まえたうえで、実習の総括や自己評価を行い、課題や学習目標を明確にする。</li> </ul>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習についての意義、目的、施設内容など事前指導の内容を十分理解し主体的に実習に取り組むことができる。</li> <li>・実習終了後の振り返りをしっかり行い、得られた成果と課題を整理、表現することができる。</li> </ul>				
テキスト・参考図書等	フォトランゲージで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画/神永直美/萌文書林				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	提出物・グループワーク参加状況を総合的に評価します。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	60			
その他	40				
履修上の留意事項	板書、プリント、ビデオ等、実習は今までに学んだことを実際の保育の場で実践し、成果を確かめる機会です。厳しい実体験の中から学校では得られない貴重な事柄をたくさん学びます。身につけていること、さらに高めなければならないことを整理して有効に過ごしましょう。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	実習園について・実習概要・個人票下書き・冬遊び服装について		
	2	保育所実習について	個人票・出勤票・評価票清書・お礼状の書き方		
	3	実習に生かす表現技術	発表(自己紹介振り返り)		
	4	実習に生かす表現技術	発表(自己紹介振り返り)		
	5	保育所実習について	実習目標の設定について、実習生の心得・注意・報告書(書庫説明)		
	6	実習記録について	実習の日誌の書き方		
	7	実習記録について	実習の日誌の書き方		
	8	保育所実習について	オリエンテーションについての注意事項		
	9	実習記録について	絵本の指導案立案		
	10	保育所実習へ向けた総括	実習ファイル等関係書類・実習評価、実習報告書確認		
	11	実習事後指導	実習報告会(グループワーク)・反省会・個別指導・礼状送付		
	12	実習事後指導	実習報告会(グループワーク)・反省会・個別指導・礼状送付		
	13	実習事後指導	実習報告会(グループワーク)・反省会・個別指導・礼状送付		
	14	実習事後指導	実習報告会(グループワーク)・反省会・個別指導・礼状送付		
15	実習事後指導	実習報告会(グループワーク)・反省会・個別指導・礼状送付			



授業科目	スポーツ(実技)	担当教員	上山 純一		
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	スポーツを通して、以下の①~③のスキルを養う。 ①問題解決力(分析的思考、クリティカルシンキング、創造性・独自性・進取的精神) ②自己管理能力(能動的学習と学習ストラテジー、レジリエンス・ストレス耐性・フレキシビリティ) ③協調性(適応力、リーダーシップと社会的「他者への」影響力)				
到達目標	基本的なコンディショニング(身体の調整)とトレーニングを行うことができる。各種目の理解を深めると共に、ルールを守って、安全にスポーツを行うことができる。最初から最後まで仲間と協力し、運動を楽しむことができる。				
テキスト・参考図書等	必要に応じて授業内で資料を配布します。				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	その他の内訳 ○パフォーマンスチェック(20%)：好きなスポーツ種目を選択し、その技術を自由に組み合わせて披露(自己PR)する実技試験です。習熟度とともに、創造性・独自性を評価します。(1分程度) ○積極性(40%)：毎回の授業への積極性/やる気を評価します。スポーツを楽しんで行っているかどうかを重視します。 ○協調性/協働性(40%)：準備・練習・ゲーム・後片付け等、皆と協力して授業に参加しているかどうかを見ます。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
その他	100				
履修上の留意事項	動きやすい服装と運動靴(室内用)で、必ず授業に参加して下さい。質の良い食事(栄養)と睡眠をしっかりとって、授業に臨みましょう。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	本授業の目的と展開についての説明、コンディショニング&トレーニング理論		
	2	基礎運動(1)	体軸を整えるコンディショニング、基礎体力を高める自体重トレーニング		
	3	基礎運動(2)	コーディネーショントレーニング、効果的なウォーミングアップとクールダウンの方法		
	4	ドッジボール(1)	ルールの確認、ウォーミングアップ、基礎練習、ゲーム		
	5	ドッジボール(2)	ゲーム、クールダウン		
	6	バスケットボール(1)	ルールの確認、ウォーミングアップ、基礎練習、ゲーム		
	7	バスケットボール(2)	ゲーム、クールダウン		
	8	バレーボール(1)	ルールの確認、ウォーミングアップ、基礎練習、ゲーム		
	9	バレーボール(2)	ゲーム、クールダウン		
	10	フットサル(1)	ルールの確認、ウォーミングアップ、基礎練習、ゲーム		
	11	フットサル(2)	ゲーム、クールダウン		
	12	その他のスポーツ(1)	ルールの確認、ウォーミングアップ、基礎練習、ゲーム		
	13	その他のスポーツ(2)	ゲーム、クールダウン		
	14	その他のスポーツ(3)	ルールの確認、ウォーミングアップ、基礎練習、ゲーム		
15	パフォーマンスチェック	各自が考えたパフォーマンスの習熟度・創造性・独自性を評価する実技試験			



授業科目	保育内容演習Ⅰ	担当教員	石垣 あけみ		
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	幼児期における造形表現の特徴を理解し、色や形やものを通して子どもとふれ合う保育者としての実践力を培う。				
到達目標	・造形素材の基本を理解し、実践できる。・幼児の発育に応じた、適切な支援ができる。・安全に十分配慮した環境を準備し、制作ができる。				
テキスト・参考図書等	「学びのABC」教育・保育テキスト&ノート／阿部宏行 絵・文／かりん舎				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	<提出物> ・作品の完成度 <その他> ・実技演習の意欲・関心・態度 ・実技演習の理解度・実施度		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	50			
	その他	50			
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション 子どもの造形表現①	講義の進め方等 子どもの特性と表現の特徴について		
	2	子どもの造形表現②	子どもの特性と表現の特徴について		
	3	描く…基本①	クレヨンをつかって		
	4	造形遊び①	新聞とのりをつかって		
	5	描く…基本②	クレヨンと折り紙をつかって		
	6	造形遊び②	はさみをつかって		
	7	水彩絵の具の基本①	水彩絵の具の基本と活用		
	8	水彩絵の具の基本②	水彩絵の具の基本と活用 いろいろな表現と組み合わせ		
	9	造形遊び③	紙などをつかって		
	10	子どもの心で	折り紙と描画のコラボ		
	11	子どもの表現の世界をひろげる①	不思議の世界をイメージする①		
	12	子どもの表現の世界をひろげる②	不思議の世界をイメージする②		
	13	作品集の製作①	カッターを使って		
	14	作品集の製作②	表現を生かしてつくる		
15	作品集の発表・振り返り	表現したことをもとに発表会 ・講義の振り返り			



授業科目	絵本と手づくりおもちゃ		担当教員	浦島 葉子	
対象年次・学期	1年・後期		必修・選択区分	選択必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数 30時間
授業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもにとって絵本は、なぜ必要かを学ぶ。</li> <li>・製作の基礎を知り、製作遊びが楽しめる環境設定を学ぶ。</li> </ul>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの発達年齢を理解し、ねらいに合った絵本の選択、実践ができる。</li> <li>・製作遊びの留意点を理解し、実践できる。</li> </ul>				
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提出物、課題への積極性・グループ活動での協調性・実践授業の参加状況による総合評価</li> </ul>		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	40			
	その他	60			
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	絵本の理解Ⅰ	発達年齢に合った絵本を知ろう		
	2	絵本の理解Ⅱ	絵本を導入にして		
	3	指導案作成	発達年齢に合った製作遊びを考える		
	4	実践準備	展開方法を学ぶ、準備		
	5	保育園実践	保育園実践		
	6	保育園実践	保育園実践		
	7	振り返り、再考	再考、準備		
	8	保育園実践準備	展開方法を知る		
	9	保育園実践準備	絵本読み、製作活動準備		
	10	保育園実践	保育園実践		
	11	保育園実践	保育園実践		
	12	作って遊ぼうⅠ	身近な素材を使っでの製作、遊び		
	13	作って遊ぼうⅡ	身近な素材を使っでの製作、遊び		
	14	作って遊ぼうⅢ	身近な素材を使っでの製作、遊び		
15	まとめ	まとめ			



授業科目	情報リテラシーと処理技術	担当教員	菅原 和良		
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	選択必修	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	課題の発見・解決を図る学習活動を通して、基本的なソフトウェアの利用について理解するとともに、情報社会における個人の責任や情報リテラシーについての理解を深める。				
到達目標	講義・演習・課題発表・ディスカッションを組み合わせ、自分のアイデアや考えを効果的に伝え、情報社会に主体的に参画する態度を身に付ける。				
テキスト・参考図書等	イチからしっかり学ぶ！Office 基礎と情報モラル (noa 出版)				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	50	授業では原則毎回課題発表を行うことから、個人の発表に対する取り組みやプレゼン、ディスカッション、グループ協議などの演習を試験と同等に評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
その他	50				
履修上の留意事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生としての授業規律と学習に対する意欲を期待する。</li> <li>2. コミュニケーションスキルを身に付けることを期待する。</li> <li>3. 授業への積極的・主体的参加を期待する。</li> </ol>				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション 授業ガイダンス	年間指導計画と授業の進め方などについての説明		
	2	セキュリティと情報モラル	セキュリティとは コンピューターウイルス		
	3	Word (1) 入力・修正	文書の新規作成、保存、文書を開く		
	4	Word (2) チラシ作成	書式、フォント、センタリング		
	5	Word (3) レポート作成	ページ設定、表紙の作成、画像の挿入		
	6	Excel (1) 表作成	データの入力、訂正、削除		
	7	Excel (2) 計算式	数式の入力、数式のコピー、関数の利用		
	8	Excel (3) グラフ作成	棒グラフ、円グラフ、レーダーチャート		
	9	PowerPoint (1) プレゼン	プレゼンテーションの要点、形式、画面構成		
	10	PowerPoint (2) スライド作成①	スライドデザインの選択、文字の入力、スライドのコピー		
	11	PowerPoint (3) スライド作成②	スライドの編集、画像の挿入、図形の作成		
	12	PowerPoint (4) 効果・発表	ワークショップ (1)		
	13	PowerPoint (5) プレゼンの実際①	ワークショップ (2)		
	14	PowerPoint (6) プレゼンの実際②	ワークショップ (3)		
15	情報活用についての授業総括	年間授業のまとめと自己評価			



授業科目	保育の理解と方法Ⅰ	担当教員	櫻井 かおる		
対象年次・学期	1年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	30回	時間数	60時間
授業目的	音楽に関する基本的な知識や技能を身につけ、ピアノ演奏を通しての楽しさや喜びを体験する。				
到達目標	乳幼児の音楽教育において必要とされる音楽の基礎知識を習得し、ピアノ演奏の基礎技能を身につける。				
テキスト・参考図書等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(初心者) 小学校・幼稚園教諭・保育士をめざす人のための「Let's play the BEYER」／高御堂 愛子ほか／圭文社</li> <li>・(経験者) 進度に合わせたテキストを使用。</li> </ul>				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	70	実技試験・授業毎の課題曲演奏状況		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
その他	30				
履修上の留意事項	実技：個人及びグルーブレッスン（主にピアノの演奏）、保育士にとって、ピアノの演奏技術は大変重要です。ピアノは短期間で上達できるものではないので、毎日の練習の積み重ねを大切にしてください。長い爪やマニキュアをすることはレッスンに支障をきたします。十分に気を付けて出席してください。場合によってはレッスンを受けられないことがあります。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	「Let's play the BEYER」	オリエンテーション		
	2	No. 1～No. 4	ト音記号に慣れる ハ長調の曲を両手で演奏		
	3	No. 1～No. 4	指の形に気を付けて打鍵する		
	4	No. 5～No. 7	左手の動きに集中する		
	5	No. 5～No. 7	重音に慣れる		
	6	No. 8～No. 11	右手から左手への移動		
	7	No. 8～No. 11	タイの含まれる曲のに演奏		
	8	No. 12～No. 15	連弾演奏		
	9	No. 12～No. 15	レガートで演奏する		
	10	No. 16～No. 20	3度のメロディーに慣れる		
	11	No. 16～No. 20	連弾演奏		
	12	No. 16～No. 20	連弾演奏		
	13	No. 21～No. 24	八分音符の練習		
	14	No. 21～No. 24	1. ma2. ma の演奏の仕方		
	15	まとめ	進度確認試験 振り返り		
	16	No. 25～No. 30	3拍子の曲を演奏		
	17	No. 25～No. 30	8分の6拍子の曲を演奏		
	18	No. 31～No. 37	クレッシェンド・ディミヌエンドに気を付けて演奏する		
	19	No. 31～No. 37	ポジション移動の練習		
	20	No. 38～No. 43	ハ長調の音階練習		
	21	No. 38～No. 43	ト長調の音階練習		
22	No. 44～No. 52	3連符の曲を演奏する			

	23	No. 44～No. 52	ニ長調の曲を演奏する
	24	No. 53～No. 57	イ長調の曲 装飾音符の含まれる曲を演奏する
	25	No. 58～No. 63	両手ポジションの移動練習
	26	No. 58～No. 63	付点 8 分音符 + 16 分音符の曲を演奏する
	27	No. 64～No. 71	イ長短音階の練習
	28	No. 64～No. 71	へ長調の音階の練習
	29	No. 72～No. 78	付点のリズムを正しく演奏する
	30	まとめ	まとめ 試験



授業科目	保育内容総論	担当教員	坪田 清美		
対象年次・学期	1年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	五領域、科目別に学び進めてきた部分が保育の現場で、どう総合的に展開してゆくのかを学び実践力をつける。				
到達目標	現場での実践力がつく。				
テキスト・参考図書等	プリント配付				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80	定期試験、授業への参加態度を総合して評価します		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
その他	20				
履修上の留意事項	プリント・板書・視聴覚機器、現場のにおいのする楽しい授業を目指します。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	総合的に保育すること	領域を越え展開される実際の保育を知る		
	2	親子の置かれている現状	家庭・地域・社会の中の親子の姿を知る		
	3	親子の置かれている現状	家庭・地域・社会の中の親子の姿を知る		
	4	保育ニーズの多様化	社会構造との関わり、子どもの立場からも考える		
	5	保育ニーズの多様化	社会構造との関わり、子どもの立場からも考える		
	6	家庭援助と保護者との関わり	共感的理解、子育て・親育ち、パートナーシップ		
	7	保育現場のマナー・マニュアル	ビデオを使って		
	8	保育現場のマナー・マニュアル	ビデオを使って		
	9	保育現場のマナー・マニュアル	実際のマニュアルから		
	10	保育指針とカリキュラム	指針の理解を深め、カリキュラムの実際を知る		
	11	保育指針とカリキュラム	指針の理解を深め、カリキュラムの実際を知る		
	12	保育指針とカリキュラム	指針の理解を深め、カリキュラムの実際を知る		
	13	主体的に仕事をするということ	チームワーク、企画力、楽しく仕事をするために		
	14	主体的に仕事をするということ	チームワーク、企画力、楽しく仕事をするために		
15	まとめ	保育士としての総合的なレベル up を確認			



授業科目	憲法	担当教員	落合 研一		
対象年次・学期	1年・通年	必修・選択区分	選択必修	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	日本国民として身につけなければならない憲法の基本的事項を理解する。				
到達目標	日常生活で要求される憲法課題について、論じることができるようになる。				
テキスト・参考図書等	<参考図書> 日本国憲法－憲法基本判例付－／上田正一／豊岡短期大学				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験 80%</li> <li>・その他：授業参加態度 20%</li> </ul>		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
その他	20				
履修上の留意事項	<p>①国民生活と憲法の関わりの重要性を理解していただきたい。</p> <p>②具体的事例や今日の話題をとおして自ら考え、実践することができる「生きた憲法」を学んでいただきたい。</p>				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	憲法概論	憲法を学ぶにあたって		
	2	日本国憲法の歩み	制定過程		
	3	日本国憲法の基本原理	国民主権主義・平和主義・人権尊重主義		
	4	統治機構 1	国会の権能・機能・組織		
	5	統治機構 2	内閣の権能・機能・組織		
	6	統治機構 3	裁判所の権能・機能・組織、裁判員制度		
	7	統治機構 4	行政改革・地方分権・地方自治体の再編成		
	8	基本的人権 1	人権保障の歴史的経緯		
	9	基本的人権 2	自由権的基本権		
	10	基本的人権 3	社会権的基本権		
	11	基本的人権 4	新しい人権		
	12	憲法改正論議	天皇の地位・平和主義・人権保障		
	13	憲法問題を問う	演習…一問一答形式		
	14	憲法問題を問う	演習…論述形式		
15	総復習	テスト対策			



授業科目	乳幼児保育Ⅰ	担当教員	平原 由衣		
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	乳幼児保育の意義・目的及び、重要性などを理解し、多様な保育の場における乳幼児保育の現状と課題について学ぶ。				
到達目標	乳幼児保育の必要性や基本的な知識を理解した上で、乳幼児保育の現状と課題について説明できる。				
テキスト・参考図書等	講義で学ぶ乳幼児保育／小山明子(編著) 亀崎美沙子 善本眞弓／わかば社				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	70	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業での積極性、グループワーク等に対する参加意欲(10%)</li> <li>・筆記試験による評価(70%)</li> <li>・レポートや提出物とその内容(20%)</li> </ul>		
	レポート	10			
	小テスト	0			
	提出物	10			
その他	10				
履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書を中心にプリント資料を活用しながら、ディスカッション等を通して理解を深める。</li> <li>・社会から求められる保育士となるよう、乳幼児への理解や必要な知識を学ぶ。</li> </ul>				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション 「乳幼児保育」とは何か	授業概要の説明 乳幼児保育の目的・役割・実施体制などについて		
	2	乳幼児保育の基本①	乳幼児保育の歴史の変遷・背景などについて		
	3	乳幼児保育の基本②	乳幼児保育のニーズの高まり・多様な場における乳幼児保育の展開		
	4	0・1・2歳児の発達	人とかかわっていくことについて(アタッチメントやコミュニケーションなど)		
	5	0歳児の保育内容	0歳児の発達の特徴・保育内容について		
	6	乳幼児の成長発達をふまえた保育①	3歳未満児の生活と環境をふまえた保育内容について		
	7	乳幼児の成長発達をふまえた保育②	3歳未満児の遊びと環境について		
	8	乳幼児の成長発達をふまえた保育③	乳児の生活の基本について		
	9	乳幼児の成長発達をふまえた保育④	3歳以上児の遊びと環境について		
	10	乳幼児の成長発達をふまえた保育⑤	乳幼児保育の環境構成について		
	11	発達・発育をふまえた保育者による配慮・援助や関わり	3歳未満児の発達・発育をふまえた保育者による配慮について		
	12	乳幼児保育における全体的な計画	乳幼児保育での全体的な計画と指導計画について		
	13	乳幼児保育における子育て支援	乳幼児保育での子育て支援の実際について		
	14	乳幼児保育における連携	職員間・保護者間・関係機関との連携・協働について		
15	一人一人を健やかに育ていくために 授業のまとめ	保育者としての専門性と資質向上について 授業の振り返りとまとめ			



授業科目	文章表現		担当教員	河原 範毅	
対象年次・学期	1年・後期		必修・選択区分	選択必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数 30時間
授業目的	文章の書き方の基本技法の技術を習得し、社会人として求められるコミュニケーション能力の基礎を身につける。				
到達目標	記録の重要性と目的を理解し、学んだ文章の基礎及び文章表現を実践業務に活用できる。				
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80	試験と提出物で総合的に評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	20			
その他	0				
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	文章の基礎 (1)	表記Ⅰ		
	2	文章の基礎 (2)	漢字・語彙Ⅰ		
	3	文章の基礎 (3)	漢字・語彙Ⅱ		
	4	文章の基礎 (4)	言葉遣いⅠ		
	5	文章の基礎 (5)	言葉遣いⅡ		
	6	文章の基礎 (6)	言葉遣いⅢ		
	7	文章の基礎(7)	表記Ⅱ		
	8	文章の基礎 (8)	表記Ⅲ		
	9	文章の基礎 (9)	表現Ⅰ		
	10	文章の基礎 (10)	表現Ⅱ		
	11	文章の基礎 (11)	言葉遣いⅣ		
	12	文章表現の実践 (1)	書簡文Ⅰ		
	13	文章表現の実践 (2)	書簡文Ⅱ		
	14	文章表現の実践 (3)	構成		
15	文章表現の実践 (4)	実習関連			



授業科目	保育の心理学	担当教員	長谷川 香		
対象年次・学期	1年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	こどもの発達にかかわる心理学の基礎を学び、発達を捉える視点やこどもへの理解を深める。				
到達目標	心理学的基礎知識を保育の現場でいかすことの素養を身につける。				
テキスト・参考図書等	保育の心理学/長谷部比呂美・日比暁美・山岸道子・吉村真理子/ななみ書房				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	70	定期試験、小テスト、提出物、ワーク参加状況を総合して評価します		
	レポート	0			
	小テスト	10			
	提出物	10			
	その他	10			
履修上の留意事項	板書、テキスト及びプリント、必要時に視聴覚教材を使用します。心の発達など心理学的基礎知識を持つことは大切なことです。保育実践のなかでそれがどのようにいかされているのか学んでほしいと思います。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	講義の進め方		
	2	こどもの発達理解 (1)	子どもの発達を理解することの意義		
	3	こどもの発達理解 (2)	発達の原理		
	4	こどもの発達理解 (3)	発達と環境		
	5	こどもの発達理解 (4)	こども感、保育感		
	6	こどもの発達過程 (1)	情動的発達		
	7	こどもの発達過程 (2)	道徳性の発達		
	8	こどもの発達過程 (3)	動機付けの発達		
	9	こどもの発達過程 (4)	身体的機能と運動機能の発達		
	10	こどもの発達過程 (5)	知覚・認知の発達		
	11	こどもの発達過程 (6)	ことばの発達		
	12	こどもの学びと保育 (1)	社会性の発達、こどもの生活と人間関係 領域「人間関係」		
	13	こどもの学びと保育 (2)	乳幼児期の学びに関わる理論		
	14	こどもの学びと保育 (3)	乳幼児期の学びの過程と特性		
15	まとめ	乳幼児期の学びを支える保育			



授業科目	保育内容演習Ⅱ		担当教員	櫻井 かおる	
対象年次・学期	1年・通年		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	30回	時間数 60時間
授業目的	保育の現場では、幅広い音楽の知識をもって実践できることが望ましい。本科目では、音楽理論の基礎と様々な音楽表現活動を学ぶ。 こどもの心身の発達について理解し運動遊びの工夫や注意点について学ぶ。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽理論における基礎的なリズムや楽語、楽譜の読み方を理解し、楽器演奏、歌唱、身体表現ができる。</li> <li>・楽器の扱い方を理解し、演奏できる。</li> <li>・グループ活動において、積極的に取り組み、円滑なコミュニケーションを図りながら、計画的に練習と考察を重ねることができる。</li> <li>・運動遊びに対して、興味関心を持ち、現場での指導を前提に内容を考え、実践することができる。</li> </ul>				
テキスト・参考図書等	改訂 ポケットいっぱいのおた／鈴木恵津子、富田英也／教育芸術社 0～5歳児の発達にあった楽しい！遊び 柗澤秋孝・柗澤友希 ナツメ社				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験		・提出期限・内容について(50%)・その他～実技能力(50%)		
	レポート				
	小テスト				
	提出物	50			
その他	50				
履修上の留意事項	<p>保育の実践で必ず必要とされる教科です。個々の音楽能力を伸ばし、毎回実習などで実践できる内容を行ないますので、休まず受講しましょう。音楽の楽しさや美しさを子どもたちに伝えていくには、まず自らが音楽を愛し、技能を高めることが必要です。積極的に参加し、音楽の楽しさをたくさん体感してください。授業内で資料を配布します。保存するファイルを用意してください。</p> <p>実技が中心なので運動ができる服装で参加してください。</p>				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	音楽の基本	領域「表現」における音楽表現について 基礎的な音楽理論について学ぶ 楽譜を読み解く		
	2	音楽の基本	音楽表現、リトミックについて		
	3	音楽の基本	リトミックを楽しむ		
	4	音楽の基本	リトミックを楽しむ		
	5	音楽の基本	リトミック・わらべうた		
	6	ボディパーカッション	リズムを身体で表現する		
	7	歌唱・合唱	腹式呼吸や発声のメカニズムを体感しながら歌う		
	8	歌唱・合唱	指揮法を学び、声を合わせて歌う		
	9	歌唱・合唱	保育園で歌われることの多い生活の歌を歌う①		
	10	歌唱・合唱	保育園で歌われることの多い生活の歌を歌う②		
	11	楽器について学ぶ	さまざまな楽器に触れ、その特長や演奏法を学ぶ(器楽合奏)		
	12	楽器について学ぶ	さまざまな楽器に触れ、その特長や演奏法を学ぶ(器楽合奏)		
	13	歌唱・合唱	2部合唱、3部合唱		
	14	歌唱・合唱	2部合唱、3部合唱		
	15	歌唱・合唱	保育園で歌われることの多い行事の歌を歌う		
	16	器楽合奏	トーンチャイムの演奏法を学ぶ		
	17	器楽合奏	トーンチャイムでの合奏		
	18	創作ダンス	こどものうたに合わせた簡単なダンスを創作する		
19	歌唱・合唱	ハーモニーを感じながら、歌う楽しさを味わう			

20	歌唱・合唱	ハーモニーを感じながら、歌う楽しさを味わう
21	オリエンテーション	幼児体育の必要性・指導の在り方
22	運動あそび指導方法「基礎技能」	安全管理・全身運動
23	運動あそび指導方法「基礎技能」	道具を使った運動あそび
24	運動あそび指導方法「基礎技能」	道具を使った運動あそび
25	運動あそび指導方法「基礎技能」	道具を使った運動あそび
26	運動あそび指導方法「基礎技能」	運動あそびの展開
27	運動あそび指導方法「あそびの実践」	発達に合った運動あそび（考察）
28	運動あそび指導方法「あそびの実践」	発達に合った運動あそび（練習）
29	運動あそび指導方法「あそびの実践」	発達に合った運動あそび（実践）
30	運動あそび指導方法「あそびの実践」	発達に合った運動あそび（振り返り・まとめ）



授業科目	リトミック	担当教員	櫻井 かおる		
対象年次・学期	1年・後期	必修・選択区分	選択必修	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	<p>・幼児期のリトミックの必要性を理解し、基礎的技術を身につける。・各年齢の子どもの特徴を学ぶとともに、発達の段階に合わせた指導法を身につける。・リトミックを通し、保育の実践でどのように生かし、子どもの何を育てていくかを学ぶ。・子どもの個性と自由な表現を最大限に尊重する態度の大切さを知る。・色々な教材にふれて、その指導法や留意点を学ぶ。・指導案の立案と作成上の基本的な留意点を学ぶ。</p>				
到達目標	<p>こどもの発達に合ったリトミック活動の指導計画を立案できる。保育園での実践において指導案にそった活動が実施できる。</p>				
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	・指導案作成内容、取り組み状況・実践授業への参加状況		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	40			
その他	60				
履修上の留意事項	<p>演習形式（実技）プリント、授業は動きやすい服装で参加してください。実技中心の授業となりますので健康管理を行い、楽しく参加してください。</p>				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	リトミックとは何か、・幼児期のリトミックの必要性と留意点を理解する		
	2	即時反応・拍と数・拍子	合図にすばやく反応して表現する、音楽を聞いて反射的に動作する・ビートによってステップする・拍子を聴き分ける		
	3	保育園実践	こどもたちと一緒にリトミックを行う・4歳児5歳児の特徴を知る・こどもたちの興味を知る		
	4	保育園実践	〃		
	5	振り返り・まとめ	実践の録画を見ることにより、こどもと自分たちのかかわり方や活動の様子を確認する 自己課題の明確化		
	6	基礎リズムの理解	基礎リズムを理解し、ステップする、ニュアンスやダンスのリトミック活動を行う		
	7	拍子の理解と活動	2拍子、3拍子、4拍子を理解し、活動へとつなげる		
	8	即時反応・拍と数・拍子・リズムパターン	基礎リズムの組み合わせによる、リズムのパターンを理解する さまざまな活動を行う		
	9	指導案作成	4,5歳児のための指導案を作成する 次回の実践を想定し役割分・練習を行う		
	10	保育園実践	役割を分担して活動実践する。		
	11	保育園実践	〃		
	12	指導案作成	振り返りを行い指導案を作成する 役割分担し実践に向けての練習を行う		
	13	保育園実践	役割を分担して活動実践する。		
	14	保育園実践	〃		
15	まとめ	実践の録画を見ることにより、振り返りを行う。すべての実践の省察			



授業科目	タッチレッスンII		担当教員	平原 由衣	
対象年次・学期	1年・通年		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数 30時間
授業目的	1. 保育に必要な子どもとの接し方、対応の仕方を子どもと直接触れ合いを通して学ぶ。 2. ボランティア活動等、いろいろな経験を通し、福祉の心を育てる。 3. 保育や福祉に関する施設の理解を深める。				
到達目標	・子どもの対応の仕方について理解する。福祉の心を養い、実際の場面で、行動、実践できる。 保育や福祉の 関係機関・施設の特徴や役割について理解する。				
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	見学や体験の参加態度、見学・体験のレポート、グループでの発表等を総合して成績評価を行います。		
	レポート	40			
	小テスト	0			
	提出物	0			
	その他	60			
履修上の留意事項	学外施設の見学及び体験 実習報告会・講演会等、この科目は、実体験を通して保育現場での即戦力となる知識や技能を養うことを第一の目標にしています。積極的に行動し、いろいろな経験をしましょう。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	子どもの対応の仕方を学ぶ	園外活動		
	2	子どもの対応の仕方を学ぶ	園外活動		
	3	子どもの対応の仕方を学ぶ	園外活動		
	4	子どもの対応の仕方を学ぶ	園外活動		
	5	子どもの対応の仕方を学ぶ	先輩保育士講演		
	6	子どもの対応の仕方を学ぶ	保育所実習報告会		
	7	子どもの対応の仕方を学ぶ	保育所実習報告会		
	8	子どもの対応の仕方を学ぶ	施設実習報告会		
	9	子どもの対応の仕方を学ぶ	施設実習報告会		
	10	ボランティアを通し福祉の心を育てる	ボランティア実践1		
	11	ボランティアを通し福祉の心を育てる	ボランティア実践2		
	12	保育、福祉関係施設の理解を深める	保育所・幼稚園見学を通して、幼稚園の特徴を学ぶ		
	13	保育、福祉関係施設の理解を深める	福祉施設見学(1)を通して、施設理解を深める		
	14	保育、福祉関係施設の理解を深める	福祉施設見学(2)を通して、施設理解を深める		
15	まとめ	発表・評価・反省			



授業科目	こどもの保健	担当教員	畠田 美穂子		
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	子どもの健全育成を目指し、子どもの位置づけと発達を理解し子どもならではの病気やけがの傾向・特徴の基礎的知識・技術を習得する。				
到達目標	乳幼児の健康問題に関心を持ち、保育士に求められる社会的ニーズについて学ぶとともに、子どもの病気やけがに知識をもって対応できる。				
テキスト・参考図書等	子どもの保健テキスト／小林 美由紀 編／診断と治療社				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80	定期試験、グループワーク参加状況を総合して評価します。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
その他	20				
履修上の留意事項	教科書と授業内容に沿った配付資料、グループワークを行います。簡単な小テスト、提出物、感想などを求めることがあります。乳幼児の健康問題に関心を持ち、常に新しい情報をキャッチすることを期待します。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	子どもの健康と保健1	保健活動の意義と目的		
	2	子どもの健康と保健2	子どもの出生と母子保健の意義		
	3	子どもの健康と保健3	現代社会における子どもの健康に関する現状と課題		
	4	子どもの発育・発達と保健1	子どもの身体発育と運動機能の発達		
	5	子どもの発育・発達と保健2	生理機能の発達と生活習慣		
	6	保健活動と虐待防止	地域における保健活動と子どもの虐待防止		
	7	健康状態の把握	子どもの健康状態の観察と体調不良時の把握		
	8	子どもの病気1	子どもの免疫の発達と感染症の特徴		
	9	子どもの病気2	感染症の予防及び適切な対応		
	10	子どもの病気3	救急疾患の特徴と適切な対応		
	11	子どもの病気4	新生児の病気、新生児期にわかる先天性の病気の特徴と対応		
	12	子どもの病気5	アレルギー疾患の特徴と適切な対応		
	13	子どもの病気6	慢性疾患の特徴と適切な対応		
	14	子どもの健診、家族支援	集団検診と健康診断、子どもの家庭支援		
15	保健福祉行政 まとめ	母子保健事業、要点と確認のまとめ			



授業科目	社会的養護Ⅰ		担当教員	佐々木 明美	
対象年次・学期	1年・後期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数 30時間
授業目的	社会的養護に関する現状や課題、その実際について学ぶ。				
到達目標	児童福祉施設などの実践内容について触れ、社会的養護が必要な児童または保護者への支援などについて説明できる。				
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80	定期試験、提出物、ワークへの取り組み状況、積極的な発言・質問を含む参加状況等を総合して評価します。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	10			
	その他	10			
履修上の留意事項	プリントを活用し、講義形式を中心に授業を進めます。配布枚数が多くなるので、管理できるように各自工夫してください。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	社会的養護の学習	・学習の進め方 ・社会的養護とは ・社会的養護に関する用語		
	2	社会的養護の基本的な考え方	・社会的養護の基本原則 ・社会的養護の現状 ・社会的養護と家庭		
	3	子どもの権利	・子どもの権利についての基本的考え ・児童の権利に関する条約 ・子どもの権利に関する取り組み		
	4	現代社会に暮らす子どもと家庭	・日本の社会の状況 ・子どもと家族の状況		
	5	子どもの養護の歴史	・子どもの養護の歴史 ・養護を必要とする子ども		
	6	社会的養護の体系：家庭・施設・里親	・社会的養護の体系 ・社会的養護体系の課題		
	7	社会的養護の制度	・社会的養護の制度 ・家庭養護 ・施設養護		
	8	施設養護の特質	・施設養護の役割 ・施設の集団生活		
	9	施設養護の基本原則	・施設養護の基本原則 ・運営指針における基本原則		
	10	施設養護の実際1	・日常生活支援 ・自立支援		
	11	施設養護の実際2	・施設養護の治療的援助 ・施設養護の家族・地域支援		
	12	社会的養護とソーシャルワーク	・ソーシャルワークの理解 ・ファミリーソーシャルワーク		
	13	児童福祉施設の運営管理	・児童福祉施設の設備及び運営に関する基準 ・施設内虐待、苦情解決の仕組み等の実際		
	14	児童家庭福祉援助者の資質・倫理	・児童家庭福祉の仕事の特徴 ・児童家庭福祉援助者の資質・倫理		
15	社会的養護の課題まとめ	・社会的養護のこれから ・学習内容の整理			



授業科目	こどもの保健演習 A	担当教員	浦島 葉子		
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	こどもの保健の基礎知識を学び、保育の現場において実践できる力を養う。				
到達目標	こどもの保健の基礎知識を理解し、保育者として実践できる。				
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	保育現場での実習態度(子どもへの関わり等)・提出物(レポート、日誌)		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	80			
	その他	20			
履修上の留意事項	実習は、真面目に取り組むこと。命をあずかる仕事をすることを自覚すること。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	こどもの保健とは	オリエンテーション・目的・目標・内容		
	2	こどもの健康と保育の環境	保育所の特性と環境の配慮		
	3	観察実習(1)	保育における健康及び衛生、安全の管理		
	4	観察実習(2)	事故防止および安全対策		
	5	観察実習(3)	災害への備えと危機管理		
	6	観察実習(4)	保育における保健的対応の基本的な考え方		
	7	観察実習(5)	体調不良や傷害が発生した場合の対応		
	8	観察実習(6)	感染症の集団発生の予防と罹患後の対応		
	9	観察実習(7)	3歳未満児への適切な対応		
	10	観察実習(8)	救急処置および救急蘇生法		
	11	観察実習(9)	個別的な配慮を要する子どもへの対応		
	12	観察実習(10)	保育における保健計画および評価		
	13	振り返り	子どもを中心とした家庭・専門機関・地域との連携		
	14	振り返り	職員間の連携と協働		
15	まとめ	評価・反省			



授業科目	社会福祉論		担当教員	鈴木 道代	
対象年次・学期	1年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数 30時間
授業目的	少子高齢社会の現在、人々が生活するなかで直面する様々な生活問題を理解し、それらに対する社会福祉が果たすべき役割を理解することを目的とする。				
到達目標	①現代社会における様々な生活問題を理解し社会福祉の意義を説明できる②社会福祉に関する様々な制度や実施体系を理解し、説明できる③社会福祉における相談援助について理解、保育との関連を説明できる④社会福祉における利用者の保護の仕組みについて理解し、説明できる				
テキスト・参考図書等	【参考図書】 『シリーズ 保育と現代社会 保育と社会福祉【第3版】』／橋本 好市・宮田 徹編／(株)みらい				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80	評価は定期試験(80%)、授業内での課題への取り組み状況・授業への参加状況など(20%)		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
その他	20				
履修上の留意事項	・教科書は使用しませんが、参考図書をあげていますので必要な学生は学習に役立ててください。・毎回レジュメを配布します。板書(スライド)の内容をレジュメに書いてください。ノート代わりになります。・ノート代わりのレジュメは各自で整理してファイルしてください。・各テーマ終了時に、確認問題を実施します。学生の理解度の確認、復習に役立ててください。・日常生活で見聞する社会福祉の問題に関心をもち、学生自身の考えを持てるようにしてください。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション、社会福祉の概念と保育	・シラバスからの授業計画、評価方法の確認 ・社会福祉の概念と保育の意味		
	2	社会福祉の歴史と理念	・社会福祉の歴史、語義変遷、理念		
	3	社会福祉の実施体系	・社会福祉の対象、施設、法体系、利用形態の方式		
	4	利用者保護に関わる仕組み	・権利擁護、第三者評価、苦情解決		
	5	社会福祉における相談援助①	・社会福祉を担う専門職とソーシャルワークの視点		
	6	社会福祉における相談援助②	・社会福祉で活用する援助方法		
	7	社会福祉の動向と課題	・現代社会の人口動態と家族形態・機能の変化		
	8	子ども家庭への支援①	・子ども家庭福祉の概要、児童虐待防止法		
	9	子ども家庭への支援②	・社会的養護の概要、ひとり親家庭への支援		
	10	障害児・者への支援①	・障害概念とノーマライゼーション		
	11	障害児・者への支援②	・障害福祉の関連法と合理的配慮		
	12	生活困窮への支援①	・貧困概念とその現状、子どもの貧困		
	13	生活困窮への支援②	・生活困窮者自立支援制度、生活保護制度		
	14	高齢者への支援①	・社会保険制度の概要と介護保険制度		
15	高齢者への支援②	・高齢者の概念、身体的・精神的特性、認知症理解			



授業科目	こども家庭福祉		担当教員	中村 さやか	
対象年次・学期	1年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数 30時間
授業目的	子ども家庭福祉の歴史、今日的課題や現状を学び、子ども家庭福祉の理論と実際について知る。1 児童養護の体系や制度について触れ、子ども家庭福祉の在り方に関する理解を深める。2 子ども家庭福祉の実践に触れ、子ども家庭福祉の内容に関する理解を深める。3 子ども家庭福祉の実践に触れ、保育士の在り方に関する理解を深める。				
到達目標	子ども家庭福祉の制度や実施体系の説明、及び保育との関連性について述べることができる。				
テキスト・参考図書等	最新保育士養成講座 第3巻 子ども家庭福祉／「最新 保育士養成講座」総括編集委員会／全国社会福祉協議会				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80	定期試験、グループワーク参加状況などを総合して評価します。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
その他	20				
履修上の留意事項	講義形式を中心にして授業を進めます。子どもは心身ともに成長する権利を持っています。社会は児童が健全に育つように支援する義務をおっています。子ども家庭福祉の授業を通して、将来、子どもと関わる際に必要な制度等に関する理解を深めるとともに保育士としての在り方を学びます。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	子ども家庭福祉の概要	子ども家庭福祉・保育とは何か		
	2	現代社会と子ども家庭福祉	少子化の動向 児童をとりまく環境の変化、家族関係の変化、子ども家庭福祉ニーズ		
	3	子ども家庭福祉の歴史的展開 (1)	子ども家庭福祉の概念 理念 歴史		
	4	子ども家庭福祉の歴史的展開 (2)	子ども家庭福祉の歴史、現代の子ども家庭福祉の課題		
	5	諸外国における現在の子ども家庭福祉事情	各国の子ども家庭福祉体制の紹介		
	6	子ども家庭福祉の法体系 (1)	現在の児童福祉法と考え方		
	7	子ども家庭福祉の法体系 (2)	児童福祉法以外の重要法規		
	8	子ども家庭福祉の実施体制 (1)	行政機関と関係機関		
	9	子ども家庭福祉の実施体制 (2)	児童福祉施設		
	10	子ども家庭福祉の実施体制 (3)	子ども家庭福祉の専門職と資格、ネットワーク		
	11	子ども家庭福祉施策の現状と課題 (1)	子育て支援サービス、多様な保育サービス		
	12	子ども家庭福祉施策の現状と課題 (2)	健全育成・母子保健、障害のある子どもへの支援		
	13	子ども家庭福祉施策の現状と課題 (3)	要保護児童施策と虐待の防止、ひとり親家庭等の福祉		
	14	子ども家庭福祉援助活動	援助活動のプロセスと実際		
15	まとめ	講義全体の総括と重点事項の確認			



授業科目	健康科学		担当教員	上山 純一	
対象年次・学期	1年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	8回	時間数 15時間
授業目的	「健康」を維持・増進するために必須な体のしくみ・運動科学の機序を理解し、健康の知識を習得する。				
到達目標	「健康」を維持・増進するためには、何をすると良いのか、どのように日々過ごせば良いのかを自分自身の生活に照らし合わせて適切に論じることができる。				
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	40	定期試験・レポート・小テスト・取組姿勢/参加態度による総合評価		
	レポート	20			
	小テスト	20			
	提出物	0			
その他	20				
履修上の留意事項	生涯健康であることは重要なことです。体のしくみと運動の科学に関心を持ち、健康の知識を深めましょう。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	現代社会と健康	WHO 憲章における「健康」の定義について・「健康」とは何か、現代の健康課題		
	2	体のしくみと運動 (1)	骨格系・筋肉系・脳・神経系		
	3	体のしくみと運動 (2)	呼吸器系・循環器系・内分泌系		
	4	体のしくみと運動 (3)	内臓とからだの仕組み		
	5	生活習慣と健康 (1)	生活習慣病について		
	6	生活習慣と健康 (2)	食事と栄養素のバランスを考える、6大栄養素について		
	7	生活習慣と健康 (3)	運動と食事、ストレス、トレーニング理論、薬物依存症について		
8	まとめ	総復習			



授業科目	教育原理	担当教員	本間 敦志		
対象年次・学期	1年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	「教育」という営みは、人間が人間として生まれ育つ過程で必ず出会う大切な事柄であることを、具体的で現状に即した内容を通して理解する。また、学校や家庭及び地域、関係機関が連携・協力して教育を行うことの必要性を確認する。				
到達目標	教育の重要性が実感でき、授業で学んだ知識・技能等を社会（現場）に出たから活かすことができる。				
テキスト・参考図書等	毎時、資料等を配布する予定				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80	・定期試験・授業内での課題への取り組み状況・授業への参加状況		
	レポート	20			
	小テスト	0			
	提出物	0			
	その他	0			
履修上の留意事項	プリントに基づく講義を中心に課題について話し合いを行います。「教育」というと堅苦しいイメージがありますが、人間が人間らしく成長する喜びの営みであることを理解してほしいです。人間はだれでも素晴らしい素質をもって生まれてくるのですから、「環境」や「指導」によって、その素質が花開くことを具体的な事例からわかってもらえたら幸いです！				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	はじめに	オリエンテーション 教育教育の定義		
	2	教育の目的、教育の全体的概念	教育の目的と信頼される学校づくり		
	3	教育者に求められること	教師の資質と義務		
	4	新たな課題	教育を規定する法律、生きる力の育成、発達障がい		
	5	学校教育法第11条	体罰と不適切な指導		
	6	子どもの権利条約と教育を支える法律等	権利条約の内容及び教育基本法		
	7	危機管理	危機管理の対応		
	8	教員に求められる同僚性	教職員のメンタルヘルス		
	9	道徳性のはぐくみ（心の教育）＜子ども理解＞	道徳性のはぐくみ、心の教育からはぐくみへ、子ども理解のあり方		
	10	いじめ問題	いじめや虐待問題への対応		
	11	教育実践の基礎	カリキュラム、評価のあり方		
	12	さまざまな教育実践、教育思想	フレーベル、ルソー、ペスタロッチ、倉橋惣三等の思想、教育のとらえ方		
	13	日本の近・現代における教育	近・現代における教育の変遷		
	14	現代の教育課題	学校・家庭・地域等の連携と協力		
15	まとめ	これからの教育と教育者の使命			

